

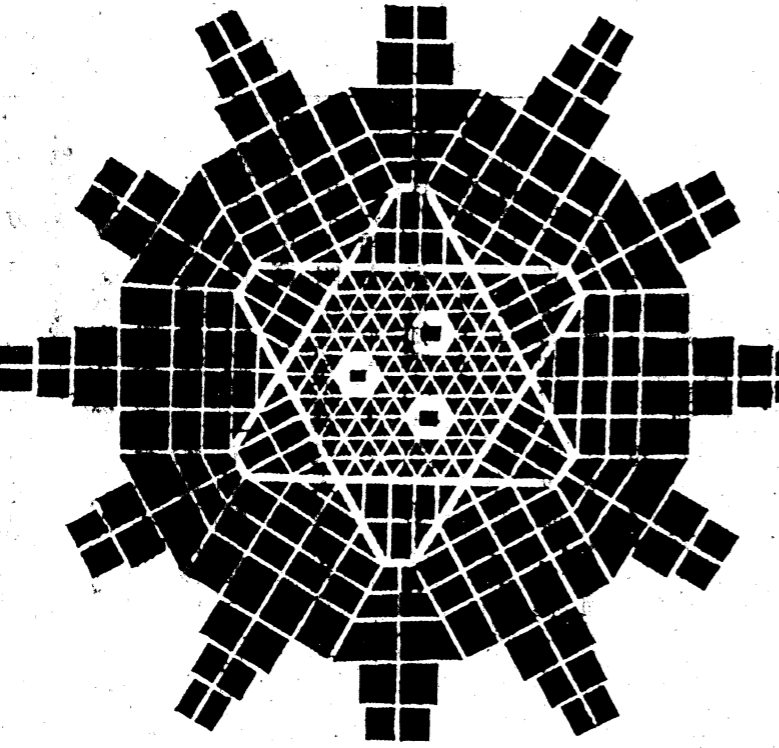
渡ニ兇徒多乘云々喜多方署  
在ラサルヲ以テ此舉ニ關  
ナルヤ否カ故障趣旨書ヲ  
シタルモノカ被告ハ右場合  
レハ何ノ故障書ヲ以テ之カ  
請求ヲ受ケザル事件ニ付判  
原言渡ニ証人ヲ指名シテ請  
スルニ云々証人トシテ喚問  
ハ八裁判上最重大有用ナル  
人ノ如キハ被告詞訟ヲ拒絶  
ニ係ルノモナラス被告カ利  
被告カ拒絶ノ証トスル者ナ  
非テ法律第七十條ノ原則アル  
石喚ノ上御訊問云々トアリ  
トト認可セラレタルハ不  
ハ其言渡ハ法律ニ據リ言渡  
ト又ハ請求ヲ受ケタル事  
明シ又更ニ第一項第二項  
等ノ非ル等ノコトヲ辨明ナシ被毀  
ハ必ス其原因ナカルベカ  
ハ構造ニ係リ行政官ハ  
ト爲シタルコト被告ハ明治  
ニ付若松警察署へ突然拘  
月二十八日ハ拘引中ニア  
上代官人大井憲太郎ノ意  
渡ニ(被告犯罪ノ証憑ハ  
ル調書ト)耳アリテ其理  
ヤ豫審調書中那邊ノ箇條  
類ニ附スルコト被告ハ道路  
筋ノ詞訟ヲ爲セシニ周旋  
月廿八日喜多方警察署へ  
シ証憑アルナシ面シテ被  
若松警察署へ拘引セラレ  
トノ身分コシテ右舉ニ直  
接ニモ又調書セシ廉モナ  
リト而已アリテ其理由  
何等ノ物件ナルヤ知り得  
ニ被告カ兇徒聚衆ノ犯罪  
ヲ見得タルニ非スヤ抑原  
告カ毎々赤城平六方ニ出  
ル現場及ヒ赤城平六方  
時ノ状況等ニ據リテ証憑  
ヲ何等其理由ヲ明示セサ  
法文ニ違反シタル判決ナ  
ト申立テ受理スルコ際  
石等ノ事實ハ其理由ナク  
由テ明示スヘキハ相當ナ  
續局又上文ノ如ク其理  
法條ニ反ヤタル者トス又  
喚問トシテ其上申書ヲ檢  
喚問トシテヒタルニ非レハ  
ハ法ニ背ヤタルニ非ス)

關係人佐治幸平赤城平六植田勇知門奈茂次郎赤城小一相  
馬猶人上野善之助五十嵐彦次郎石川大八等ヲ御名喚ノ上  
御尋問アレハ事實明瞭ナルコト火ヲ見ルヨリ明ナリトア  
リテ即証人ヲ喚出スリ當然ナルコト是ヲ呼出サ、リ、ハ何  
等ノ理由ナリシヤ其正當ノ理由ヲ示サ、ル上ハ治罪法第  
百七十條ノ成規ニ反ヤタル不法ノ言渡ナリト謂ハケル  
得ス原告職局ハ此不法ナル證據ノ言渡ヲ取消シ更ニ証人  
ヲ訊問シ豫審ノ不充分ナル點ヲ充分ニスヘキハ勿論ナル  
ニ又此手順ニ出サ、リ、ハ亦不法ノ判決ナリトス要スル  
原言渡ハ治罪法第百七十條第三百二十八條ノ法文ニ反キ  
タル判決ニ係ルノモナラス抑被告カ犯罪ノ証憑充分ナラ  
サルハ即テ上文ノ如キコトヲ有罪視シ重罪裁判所へ移ス  
トノ豫審ノ言渡ヲ認可セシハ事實ノ阻礙即テ據律ノ錯誤  
ニ係ル不法ノ言渡ニシテ治罪法第四百十條第九項ノ場合  
ニ適當スル被毀ノ原由アルモノトス因テ治罪法第四百二  
十八條第四百二十九條ニ據リ原言渡ヲ破毀シ本院ニ於テ  
更ニ裁判スル左ノ如ク  
判決 羽島詔吾カ被告事件ハ犯罪ノ証憑ナキニ依リ治罪  
法第二百二十四條ニ照シ其訴ヲ免シ且放免ス  
大審院ニ於テ檢事澄川拙三立會宣告ス  
裁判長判事 關内重俊  
專任判事 岡久義臣  
判事 武谷昌千  
判事 昌久義臣  
判事 山岩直方  
判事 秀直方  
判事 司方

時事新報

首府改造(昨日ノ續)

前條ニ記載スル如ク市區ノ構造ハ四角六角八角及ヒ圓形  
トモ各其長所アリ亦其短所アリテ專ラ其一ヲ採ルベカラ  
ズ依テ各形ノ長所ヲ集合シテ愛ニ市區ノ新離形ヲ製シ技  
術家ノ參考ニ供ス面ノ特ニ愛ニ一言スベキハ此離形ヲ取  
テ歐米諸國ノ各都府ノ圖ニ對照スルニ新國亞米利加ノ市  
區ニ似ズシテ舊國歐羅巴ノ市區ニ似タル所多キ一事ナリ



以上ハ單ニ幾何學ノミノ点ヨリ市區改良法ヲ論ズルモノ  
ナリ更ニ轉テ地理、氣象、貿易及ヒ政治等ノ点ヨリ觀察  
スルハ尙ニ研究セザル可ラザルモノ甚ダ多シ蓋シ道路  
ノ方向ハ地形ノ多ク制セラル、ト少ナカラス例ヘハ河流

或ハ街道等ノ市内ヲ橫斷スルコトアルガ如キ是ナリ地位ノ  
都合ニ由リテ何レノ方角ニ市街ヲ増築スルモ差支ナキ都  
會モアレハ或ハ兩山ノ間ニ接マ、リ、一小島ノ土地ニ限リテ  
ル等ノ事情ヨリ實際増築ノ行ハレ難キ都會モアリ西班牙  
國「カチズ」港ノ如キ島上ニ市街ヲ成シテ土地ニ限リアル  
ガタメ其仕組尋常ナラズ道路ハ極メテ狹隘ノ家屋ハ極メ  
テ高ノ屋上ニ物見欄等ノ設多キハ結構ナル空氣雨水ヲ得  
ンガ爲ナルベシ佛國「サンマロ」港ノ市街モ「カチズ」ト大同  
小異ノ觀アルナリ又世人ノ熟知スル如ク伊太利國「ヴェ  
ニス」府ニ於テ緊要ノ道路ト云フハ大抵皆堀割川ナリ幾  
個ノ橋上尋常ノ道路トテハ一條モナク何レモ皆狹隘屈曲  
實ニ驚クベキモノニナリ然レモ之ニ反シテ「サンガリ  
」國ノ諸府ノ如キハ大抵皆廣大ナル土地ヲ占メ隨テ其  
入口モ決シテ稠密ナラザルナリ例ヘバ「マリヤ」ナリ「キ」府  
ノ如キ「レクリウ」氏ノ報據ニ從ヘバ全市ノ廣サ八百九十  
六平方「ヤロメートル」ノ土地ヲ占メ各都會ニシテ其實  
原頭ニ井然タル並木街道ヲ作リ其左右ニ人家ヲ點綴セシ  
メ沙漠タル原野ニ石塊ノ点々タルト一般ナリト  
又季候ノ点ヨリ觀察スルニハ市中ノ通路ノ屈曲狹隘ナル  
ハ寒暑ヲ遮ルノ便アリト雖モ空氣ノ流通ヲ妨グ瘴氣ノ鬱  
積ヲ醸スノ害アリ實ニ依ルニ大抵ノ都會ハ平常風ノ由  
テ來ル所ノ方角ニ向テ次第ニ其市街ヲ擴メルノ傾向アリ  
蓋シ風上ノ地方ハ空氣純精ニシテ市内ノ瘴氣ニ觸ル、ノ  
恐ナク最モ健康快活ノ場所ナレバナリ  
又經濟上ノ点ヨリ觀察スルニハ人口ノ疎密任事ノ繁簡ヲ  
計リ處スル所ナルベカラズ理論上ヨリ云ヘバ各道端ノ  
廣狹ハ之ヲ通行スル人馬ノ數量ト比較シテ過不及アルベ  
カラザルコトナラシ見、ル、中央區ノ魚點ニ過スル區廣ハ  
廣且直ニシテ昂低等ノ障礙ナキヲ要スベシ  
市街改良ハ大抵既ニ存在スル現形ニ制セラレ新街ヲ擴  
テ自在ニスルコト能ハズ急ニ發達シタル新都府ノ類ハ原  
圖式ヲ製シ其指示スル所ニ從テ各部ノ市街ヲ擴充シ全都  
ノ市區整然タルモノナキコトアラズ日耳曼「ハイアム」(「カ  
ールスル」)府及ヒ米國ノ諸都會ノ如キ是アリ左レハ歐  
洲ノ諸都會ハ永キ年月ノ間ニ漸次改良モシモノナルヲ以  
テ市街ノ仕組整頓シタルモノ少ナシ  
市區ノ周圍ニ城壁ノ設ナキ都會ハ市街ヲ增築スルコ先ツ  
近傍ノ都會ト往來スル街道ニ於テ次第ニ四方ニ廣ガルモ  
ノトス然レハ城壁ノ設ケアル都會ハ左ニ「ア」コト人月稠密  
スルニ隨テ都外各處ニ点々集落ヲ成シ城內ハ人稠地隘日  
ニ益甚シク一旦忍ブ可ラザルニ至リテ都外ニ城壁ヲ設ケ都  
外ノ集落ト合併スルヲ常トス面シテ城壁ノ設ケハ都會ノ  
中央區ヲ周圍スル九軌ノ大連ト變スベシ舊國「巴塞隆」ノ如  
キ明カニ此類ヲ存スルモノナリ通常北緯內ノ市區ハ

久シク狭隘區域ニ限ラレタルガタメ道路極メテ狭ク  
家屋極メテ高ク人煙極メテ稠密ナリ而シテ商賣遊嬉  
公私一切ノ事務ヲ此中ニ集合シ諸會社、寺院、官廳、  
劇場等ハ一モ此區内ヲ去ルコトナシ又大道外ノ各集落  
ハ其道路極メテ中央區ノ方向ニ通シ自然ニ輻ノ散ニ  
集マル形状アリ集落ハ道路モ廣ク人口モ少ナク家屋  
ノ間ニ空地ヲモ存シ中央區ノ熱鬧ニ引換ヘテ甚タ閑  
靜ナリ埃太利國維也納府ノ如キ時世ノ變遷ニ由テ漸  
次舊都會ニ歐風ヲ加ヘタル最良ノ一例タルヘシ

又地形ノ都合ニ由リ市街ヲ擴張スルニ各方一様ナル  
「館ハザルモノアリ白耳義國「アントワーブ」府ノ如  
キ「スケルト」河ニ面スルガタメニ近時其郭外ノ集落  
ト合併シテ其全府ノ形ヲ半月ヲ成スニ至リたり或ハ  
佛國「カレ」府ノ如キ郭外唯一個ノ集落ヲ有スルノ  
モ「テ」此集落ハ中央區ニ比スレハ人煙却テ稠密ナリ  
トス又一朝都ヲ都會ノ形状ヲ變スルハ城壁ノ撤去ノ  
モ由ルコトアラス大火ノクニ全市或ハ其大部分ヲ灰  
燼ニ閉シタル後之ヲ再築スルニ當リ大ニ市區ヲ改正  
シ新美屋ヲ建テ一朝ニシテ其面目ヲ改ムルコト多シ佛  
國「レン」府カ千七百二十年ノ大火ニ舊市街ヲ一掃シ  
新ニ整然タルノ美麗ノ市街ヲ現出シタルガ如キ是ナ  
リ或ハ又人力ヲ以テ舊市街ヲ撤シ代ヘテ善美ノ新市  
街ヲ以テスルコトアリ此場合ニ於テハ從來府内ノ最陋  
隘ノ巷間ナリシモノ先ツ此變化ヲ受ケ一飛シテ府内  
最壯麗ノ市街トナルヲ常トス「ハウスマン」氏ガ執政  
中佛國巴黎及ヒ其他ノ都府ニ施行シタルモノハ此一  
例ナリ

以上ハ我輩ガ市區改良法ニ關スル意見ノ大略ナリ我  
輩ハ固ヨリ此疑問ニ關シ十分ニ論究シ尽シタリト云  
ニ非ス唯我輩ハ市區改良ノ緊要ナルト其長法ヲ論定  
スルコト困難ナルト且ツ從來世人ノ妄信スル四角形  
ノ市區ノ實用ニ不適當ナルトヲ世ニ公示スルヲ以テ  
足レリトスルノミ

雜報

○大嘗會 御覽式并ニ大嘗會ノ盛典ハ嗣後總て西  
京ニ於テ御施行相成るニ付宮殿保存ノ儀を太政官ヨ  
リ宮内省ニ付テ總てありたる由ありしが此頃岩倉右府  
井上參議香川宮内少輔其他書記官方數名ハ西京行ハ  
本年十一月十九日(中ノ卯の日)大嘗會を舉行せられ  
當日より引續き三日間節會ノ盛典を執行さるゝに付  
諸事取調ヘの爲めなりと云ふ右ノ付過殿宮内省内匠  
課より眞官三名出張して京都御苑内大宮御所ノ修繕  
を加ヘ居シテ差違々各國大使公使等ノ參席を設け  
開御所舊築地十七間ハ引込日ノ御門通り同横馬車ノ

通行も自在なるとしむる由此費用は六千五百圓餘なり  
と尤も大嘗會は明治四年十一月東京皇城内ニ於テ假  
ニ御執行ありしも今度更ニ本式を舉行さるゝ由既に  
桂宮を宮内省出張所と定め岩倉右府、岩倉二等掌典  
等ハ同宮ニ逗留ありて御式ノ事を取調中ありと結果  
して信あるや否やは保し難き事なれども目出度御大禮  
ノ事あれと聞くがまゝ、斯くハ記しぬ

○官報據當 文書局ハ監督ハ山縣參議ニ仰付けられ  
文書課長ハ關書記官反譯課長ハ兒川書記官ニ命せら  
れざる由又院省廳ノ報告主任ハ參事院ニ付テ清浦、  
大森、久保田ノ三書記官(久保田氏ハ文書局兼務會計  
檢査ニ付テ河野書記官元老院ニ付テ山縣書記官外務  
省ニ付テ宮本、石橋、近藤、柳谷ノ四書記官内務省ニ付  
テ何、岡田、岡書記官大藏省ニ付テ成川書記官並ニ橫  
瀬御用掛陸軍省ニ付テ清水少佐海軍省ニ付テ南郷書  
記官並ニ村上六等出仕文部省ニ付テ高橋書記官農商  
務省ニ付テ長瀬御用掛工部省ニ付テ吉田御用掛司法  
省ニ付テ前田御用掛宮内省ニ付テ長田書記官警視廳  
ニ付テ佐和、丁野等ノ兩一等警視東京府ニ付テ田沼  
書記官等ありと

○歸任 この程より御用ニ出京中ノ船越千藏縣令  
ハ昨日歸任のよし  
○文部省達 官吏懲戒例并ハ行政官吏服務記律等ハ  
府縣立町村立學校長教員及ヒ書記へも無論適用すハ  
旨去る廿六日福岡文部卿ハ各府縣へ達ありと  
○寺田步兵少佐 閑院宮へ隨行して佛國ニ在留中  
ノ寺田步兵少佐は今度同國駐在の公使館附を仰付  
られり

○米韓條約批准交換 朝鮮在留米國新任公使フット  
氏ハ五月十四日京城入り同十七日米韓條約の批  
准交換を濟せたるよま又神戶英國領事アストン氏ハ  
四月上旬朝鮮京城ニ到リ關稅ノ事ハ付談判する所  
ありたれとも十分協議お至らずして同月下旬一旦日本  
ニ歸りざるが又候急ニ朝鮮ニ赴き米國公使フット氏  
ニ先たつ五六日前ニ京城ニ着し取敢ず米韓條約ノ事  
ハ付談判して韓廷ノ人々ト談話せし趣意もありしや  
お聞きし其十七日フット氏ハ首尾よく批准交換  
を濟せたるの甚だ速かあるとあり

○日本艦船注文 過般英國に來航せし日本海軍少匠  
師佐双左仲氏は軍艦二艘を注文し見込なる由或ハ  
新造をも依頼するからんと云又共同運輸會社ノ伊東  
氏ハ新造若くハ買入めて都合八艘を注文へたる由龍  
助支那エキス、プレスお見へたり

伊東吉氏ガ今度買入をし船四艘の  
磅を一昨日其筋より同國公使館へ向け  
よし

○英國の支那學 先年英國オクスフォ  
ルデハ支那學の一新を設けたりし此  
ツヤ大學校もてその一新を設け教頭  
在英公使トーマスウヰル氏あるべし

○實金贈與 華族久松定謙君舊伊豫松  
藩士族數名共同して、福島縣下安積郡  
地開墾ニ從事し目下退々盛大ニ起り  
ん爲先資本金の内へ金若干を贈與した  
○郵便増量 驛遞局ニ付テ府ト各區  
事ハ前號お記しるが昨廿九日ニ付テ  
中ノハ書狀投入の都合あるべしと  
○臨時區部會 昨日の紙上お記せし  
時區部會ハ一昨日午後四時三十分より  
明治十六年度區部共有金總額及ヒ十四  
費不足補充案を議したるが其原案ハ  
○區部共有金總額議案  
明治十六年度區部共有金收入支  
取入ノ部  
一 金二万四千二百四十五圓八十六圓三  
(内譯)金二千二百四十四圓五十錢  
賦金)金二千五百七十圓三十六錢三  
瓦斯器補費(管費入金)金一万九  
圓(瓦斯局ヨリ消却金)金三十五圓  
電燈貸付償却金)  
一 金四万八圓八十五錢(利益取入)  
(内譯)金三万六千四百六十三圓六  
圓(利益)金三万六千四百六十三圓六  
圓(新川開墾費)金一万圓(瓦斯局  
金三千圓(家内引用瓦斯枝管取付費  
外(朱書)金八千九百圓)瓦斯製造  
改進費本年度支出額  
合計金六万三千五百五十九圓(朱書)  
収支差引 金六万九千五百七十一圓  
○區部共有金第二號議案  
明治十六年度區部共有金收入支出  
取入ノ部  
一 金六万二千九百二十四圓  
(内譯)金一万七千六百四十四圓(街頭  
七千七百七十圓(各家引用瓦斯代)金  
五圓(コリス、ター、賣却代)金  
支取ノ部  
一 金四万三千五百二十八圓  
(内譯)金二千七百六十圓(傳給)金  
(雜給)金二万九千三百九十四圓  
百四圓六十錢(局費)金二千八百五

○六万磅運送 英國領事府在留の共同運輸會社ハ長